



議会だより

CONTENTS

- 12月定例議会の概要.....2～3
- 一般質問.....4～11
- 常任委員会・分科会審査報告.....12～14
- 行政視察報告.....15
- 議員研修報告、
Y8サミット創快横手市議会.....16
- 議会報告会・意見交換会での質問回答.....17
- 市民の声、議会の主な動き.....18

撮影場所
植田保育所（十文字）

植田保育所の皆さんによる餅つきの様子です。子どもたちみんなの笑顔が地域の心を豊かにしてくれます。

指定管理者制度を導入する条例改正案を賛成少数で否決

12月定例議会の概要

12月定例議会の録画映像は、横手市ホームページの議会のページでご覧いただけます。
 (市議会トップページ→市議会動画チャンネル)

12月定例議会のあらまし

12月定例議会は11月28日から12月14日まで17日間の日程で開催されました。

初日は、同意案件2件が提案され、任期満了に伴う教育委員に佐々木雅子氏(平鹿)を任命する案と、公平委員会委員に大嶋秀夫氏(雄物川)を再任する案に同意しました。このほか、一般会計補正予算や施設の機能移転に伴う条例の一部改正などの議案16件が上程され、それぞれの議案は陳情と共に所管する常任委員会と一般会計予算特別委員会に付託して審査が行われました。

最終日の本会議では、各委員長から委員会の審査結果の報告を受けた

後、議案などの採決が行われました。採決の結果、市長提案の議案15件を可決、1件を否決。陳情1件を継続審査、4件を採択。議会提案の意見書3件を可決しました。

横手市都市公園条例及び横手市社会体育施設設置条例の一部を改正する条例案を賛成少数により否決

改正の内容は、都市公園内の体育施設と社会体育施設の管理を、市長が指定するものに行わせることができるようにするものでした。この改正案に2人の議員が討論しました。

●反対討論

赤坂総合公園、横手体育館、武道館の3つの施設を対象にすると提案しているながら、横手体育館と武道館

の2つの施設にしてしまうのはあいまいだ。ともすれば指定管理者に業務を丸投げし、市の担当部局の業務を軽減する、あるいは市の財政負担を軽減するといった側面に重点を置きがちなの姿勢を懸念せざるを得ない。準備が整わないものを提示し、指定管理者制度の導入をすることができるとする条例は、いま急いで改正する必要がないと考え、反対する。

●賛成討論

今後の横手市の財政をもとに社会体育施設の方角性を考える上で、指定管理者制度は一つの方法と考える。施設を有効活用して市民の健康増進や仲間づくり、生きがいづくりを支えるために、これまで行政ではできなかった有効活用についてのアイ



賛否一覧表 (平成28年12月定例議会)		議員名																議決結果					
会派・議員名	案件名	新風の会				さきかけ				市民の会				新政会				表決数		議決結果			
		青藤 誠洋	高橋 聖悟	木村 清貴	寿松木 孝	塩田 勉	佐々木 喜一	本間 利博	菅原 正志	阿部 正夫	齋藤 光司	菅原 恵悦	佐々木 誠	小野 正伸	遠藤 忠裕	土田 祐輝	佐藤 清春	佐藤 忠久	高橋 和樹		奥山 豊和	賛成	反対
◆議案第115号 横手市都市公園条例及び横手市社会体育施設設置条例の一部を改正する条例		○	●	●	●	●	●	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10	12	否決

○:賛成 ●:反対 欠:欠席
 ・佐藤忠久議長は採決に加わりません。
 ・採決で賛否が分かれた案件を掲載しています。他は全会一致で可決されました

◆ 陳情の審査結果 ◆

陳情5件が審査され、次のような結果になりました。(敬称略)

採 択

- ・地域の実情に応じた医療提供体制の確保を求めることについて(秋田県医療労働組合連合会 執行委員長 渋谷 一)
- ・介護保険の給付縮小・負担増を中止し、充実を求めることについて(秋田県社会保険推進協議会 会長 渡辺 淳)
- ・「高額療養費」「後期高齢者の窓口負担」の見直しにあたり、現行制度の継続を求めることについて(秋田県社会保険推進協議会 会長 渡辺 淳)
- ・福地小学校跡地への福地地区拠点施設の建設について(福地地区会議 議長 佐々木 宏)

継続審査

- ・「えがおの丘」温水プール存続についての陳情(えがおの輪 会長 門間 諭)

陳情者の申し出による取り下げ

- ・福地小学校跡地に地区交流センターを建設することについての陳情(雄物川地域づくり協議会 会長 佐藤 誠 ほか1名)

一般会計補正予算の主な内容

- 8億450万円を増額する補正予算は、原案のとおり可決しました。
- 平成27年度臨時福祉給付金給付費補助金の確定に伴う償還金 3億5916万5千円の増額
- 保育単価の上昇に伴う負担金 8462万8千円の増額

委員会の委員構成を一部変更

- 塩田勉議員 総務文教常任委員会から産業建設常任委員会へ異動。
- 土田百合子議員 議会運営委員会へ加入。(菅原 恵悦)

意見書を国等に提出

- 平成28年12月15日付で、国会や関係行政庁に要望しました。
- 地域の実情に応じた医療提供体制の確保を求める意見書
- 介護保険の給付縮小・負担増を中止し、充実を求める意見書
- 「高額療養費」「後期高齢者の窓口負担」の見直しにあたり、現行制度の軽減の継続を求める意見書

齊藤 勇 議員逝去



平成28年10月4日に、齊藤勇議員(十文字・68歳)が逝去されました。故齊藤議員は、昭和63年4月から平成17年9月まで、旧十文字町議会議員として、平成21年10月からは横手市議会議員として、通算24年6カ月の長きにわたり市政の発展にご尽力されました。その間、旧十文字町議会では産業常任委員長の要職を務められるなど、主に産業分野の常任委員会に所属し、市の基幹産業である農業の発展のため、多大な貢献をされました。ここに故人のご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈りいたします。

ココが聞きたい

一般質問で市政を問う

12月5日から7日に行われた一般質問では、議員定数が26人になってからは最多の15人の議員が登壇し、市民の皆さんの生活にかかわる行政全般について質問をしました。

各質問の内容は、紙面の都合上、要約して掲載しています。すべての質疑内容は、市議会ホームページのトップ画面にある「市議会動画チャンネル」のバナーから視聴できます。

また、質疑全文を記録した「会議録」は、2月下旬から市内各図書館でご覧いただける予定です。

「二次元コード」をスマートフォンのバーコードリーダーで読み取るとYouTubeで、録画中継をご覧いただけます。



横手市議会マスコットキャラクター しらとり議員

Q ホストタウンの効果をどう生かすか

A イスラム圏のインバウンドにも対応できる体制につなげられる

播磨 博一 議員

問 ※ホストタウンとして登録された目的は何か。

答 バドミントンの強豪国であるインドネシア共和国と相互交流を進め、地域の活性化や観光・産業振興、教育の国際化などにつなげるため、新たな可能性を模索しようとするものである。

問 今後の活動展開はどうか。

答 プロジェクトチームを立ち上げ、インドネシア共和国とつながりのある市内企業や同国出身の市内在住の方々との協力を得ながら、市民に文化や慣習の違いを体験してもらうなど、全市一帯となった取り組みを展開していく。

答 競合する他の自治体に先駆けて訪問したい気持ちはある。その時は市と議会が一体でお迎えしたいという姿勢を示すことができると思う。

問 市民の関心が高まるには事前合宿の誘致がポイントになると思いますが、いかがか。

答 市の自治体と競争になると思うが、県や北都銀行の協力をもらいながら三位一体で合宿誘致を図る。

問 オリンピックの選手村に横手の農産物(花をさむ)を提供することについて検討してみてもどうか。

答 食材の調達基準は検討中のようなのだが、開催期間はスイカや夏野菜の最盛期を迎える時期でもあり、関係機関と連携をとって、強くアピールしていく。



平成 28年10月にインドネシアのバドミントンナショナルチームが横手で強化合宿



Q 地域拠点組織化をいつまでに

A 3年～5年をめどに市内全域を目指す

菅原 正志 議員



問 新たな地域づくり組織の方向性について具体策を問う。

答 平成29年4月から14公民館で(仮称)地区交流センター化を本格実施することで協議を進めている。地区交流センター化は、公民館等を活動拠点とした地域住民からなる自主組織を形成し、地域課題解決のための活動や「自主・自立・協働」により地域の活性化を図ることを目的としている。職員配置は現行の体制を引き継ぎ、平成29年度の運営費は目的達成のための予算配分を検討している。

問 洋式トイレの設置推進について取り組みを問う。

答 庁舎の洋式数の割合は40%で、温水洗浄便座付き比率は26%、公民館の洋式付き比率は17%、学校では洋式の割合が48%である。既存施設についても導入の必要度等を把握し、設置の可能性を協議していく。



Y8サミット創快横手市議会の様子

問 Y8サミット創快横手市議会における当局答弁の実行性について問う。

答 各校の指導者と教育指導課とで総括するための会議を行う予定。今回提案された政策をもう一度整理した上で、来年度の活動方針を決めたい。

Q デマンドタクシーのバスゾーン乗り入れを急げ

A 利便性向上のため、今後も協議を続けていく

土田 祐輝 議員



問 新年度予算の重点施策を問う。

答 市民アンケートからも分かるように、要望の高い順は「雪国の快適な暮らしの実現」「企業誘致の推進と雇用対策」「子育て支援の充実」がトップ3である。今後は選択と集中による既存事業の見直しを推進するとともに、市民満足度の向上につなげていきたい。

問 デマンドタクシーの利用者の大半が高齢者であり、その7割が通院の手段として使用している。だが、直接医療機関まで行けないエリアもあり、利便性を考えると、そろそろ直接バスゾーンへの乗り入れを検討すべきと思うが、見解を問う。

答 平鹿総合病院や市立横手病院までデマンド交通で直接行くことができないため、利用しづらいなどの意見を多くいただいている。この解消に向けて集中的に



出発式で勢ぞろいしたデマンドタクシー

問 カメムシ対策として色彩選別機の導入促進を。

答 カメムシ被害防止には、適期の草刈りを基本に、集落ぐるみの一斉防除や無人ヘリを活用した対策が有効と考えている。色彩選別機の導入効果は十分認識しており、そのニーズも踏まえて検討していきたい。

Q 増田まんが美術館の今後の整備について

A 当初の予算を上回って整備を進めていく

高橋 聖悟 議員



問 工事中の近況についてから次々と出て来る計画変更。そして当初の予算5億円が足りないとのこと。何をどう見積もったのか。計画が安易すぎる。それにより肝心のマンガ展示が薄くなるならただの建物整備だ。これはマンガを通して地域を興す県との協働によるプロジェクトだ。「精一杯の5億円、青天井になつてはいけない」との弁明の中において、今後はこの整備をどう進めていくのか。

答 展示内容の充実化、法令に伴う工事、建物の長寿命化のための追加工事をすべて実施した場合、当初予算を上回る8億7千万円が必要となる。日本を代表するマンガ文化の拠点となり、世界に横手市を情報発信するチャンスであることから増額はご理解いただきたい。



増田まんが美術館

問 信用できない。世界に向けてなら多言語化の準備や数10万人来ることへの環境整備も必要だ。先進施設では飲食スペースも重要であるとの指摘があったが、そういった議論がないではないか。考えが甘くないか。厳しい財政状況の中で大丈夫か。

答 既に10万を超える人が来ており混乱はないと思う。

- その他の質問
・財産経営推進計画
・高校の再編について
・地域拠点施設整備

Q 進捗が遅れている公共温泉施設の再編方針にブレはないか？

A 12月議会中には改めて議会と協議したい

高橋 和樹 議員



●公共温泉施設の在り方と再編方針について
問 市長は昨年、ご自身の任期の折り返し地点に、それまで多額の財政負担を伴い、また市町村合併以降の10年間さまざまな議論がなされてきた公共温泉施設の再編方針を打ち出した。しかし、それから1年経過し、この時期になつても進捗状況は明らかに遅れており、それは何が原因で誰が絵を描いて音頭をとっているのか判断できない。よって、この「方針策定の背景と目的」について、1年前と考えが変わつたのか。

答 横手市の将来に向けた政策の一環として、施設がどうあるべきかを明らかにし、具体的・抜本的対策を示すことを目的としている。あくまでこの再編方針に基づき取り組みを進めたい。「公共温泉施設が抱える課題とあるべき姿」について、これを掲げた1年前と現状が変わつたのか。
問 この再編方針に基づき進めることに変わりはない。進捗状況が遅れているがために、各地域で温泉施設の閉鎖や廃止に関する間違った情報が流れ、さらには現施設の職員や社員、また公募予定者側もモチベーションが下がっているのではないのか。
答 進捗が遅れていることや、内容を今示されないことを申し訳なく思っている。12月議会中にはスケジュールを含めた公募要件等について協議したい。



歴史のある、あいのの温泉「鶴ヶ池荘」

Q TPPの制約から市民を守るため、中小企業振興条例と公契約条例の制定を！

A 県条例に則り市の総合計画で中小企業の振興を推進する

立身 万千子 議員



●人口減少克服について
問 これまでの「若者の地域定着策」の成果と課題は。
答 結婚生活応援金や三世代同・近居促進の支援、市内イクボス研修等実施したが長期的に継続していく。

問 性別役割分担意識等この地域における精神風土への働きかけも含め、新年度は総合的な男女共同参画担当の部署を設置するべきと考ええるかどうか。
答 地域交流の拠点であるY²ぷらざ3階に、地域づくり支援課市民協働係を配置している。名称も含め市民の皆様に、より頼りになる窓口の体制強化を検討する。



Y²ぷらざ3階にある男女共同参画を担当する市民協働係

問 TPP問題について
問 国際情勢が大きく変化している現在、市長は国の動きをどうとらえているか。
答 政府は国益最優先で臨むと思うので、国を信じる。市では農業所得向上につながる取り組みを進める。

問 米国次期大統領はTPP離脱を表明したが日本との二国間自由貿易協定（FTA）を結び一層圧力を強める動きがある。市民を守るためには中小企業の振興条例と公契約条例の制定が必要と考えるかどうか。
答 地元中小企業者には、県条例の理念を尊重し、地元企業の技術向上、販路拡大への取り組み等、引き続き市の総合計画に基づく事業により支援していく。公契約条例は、事業者と労働者間の民間労働契約に対する行政が関与するなどの問題があり、制定していない。

Q 家庭教育支援の充実を

A 「家庭教育支援チーム」の設置を進めている

土田 百合子 議員



問 家庭教育支援の方針について伺う。
答 今年度、市では社会教育委員や民生児童委員等の方々に、県主催の家庭教育支援指導者研修会へ参加していただいている。今後研修の機会を提供し、地域ぐるみで子育て家庭を支える体制づくりを検討する。



学力向上フォーラムで授業を視察する教育関係者

問 不登校など、深刻化した問題への支援は当然だが、「予防型支援」にももっと力を入れるべきでは。
答 市では、スクールカウンセラーや心の教育相談員を配置して教育相談を行ったり、不登校適応指導教室でも相談を行い児童生徒や保護者の不安や悩みの解消に努めている。今後不登校ゼロを目指して取り組む。

問 今後の十文字保育所の民営化計画について伺う。
答 今年度中に本計画が策定されたならば、来年度には民営化までの具体的なスケジュールを提示し、慎重に、そして丁寧に進めていく。
問 ＊＊フードバンク支援活動について伺う。
答 秋田市と潟上市においては「フードバンクあきた」を支援、協力する一環として食品回収ボックスを設置している。横手市内でフードバンク活動に取り組みする団体があれば、回収ボックスの設置を含めて支援策を検討する。

＊＊フードバンク…まだ食べられるのにさまざまな理由で処分される食品を食べる物に困っている施設や人に無料で提供する活動。

＊イクボス…部下が育児と仕事を両立できるよう配慮したり、育休取得や短時間勤務などを行っても業務を滞りなく進めるために業務効率を上げ、自らも仕事と生活を充実させている管理職。

Q 部局横断で取り組むため「マンガまちづくり対策室」を新たに設置するべきでは？

A 大変興味深い。そのような必要性は十分にあると思う

奥山 豊和 議員



●「マンガ原画と増田の町並みを生かした交流人口拡大プロジェクト」について
問 多くの方々に、マンガへの理解を深めていただく取り組みが必要と思うが。
答 マンガ原画のアーカイブ化の技術は国内トップクラスで「増田モデル」と言われている。このプロジェクトを通じて、マンガ文化の素晴らしさを多くの市民に伝えていきたい。

●連携がとれていないのでは。
答 部局横断と言いつながらされていないことは反省しなければいけない。
問 地域と共に施設づくり盛り上げていくための取り組みが必要と思うが。
答 ソフト事業は詰め切れず意見をお願いしている。
問 マンガ家が住みたいまちにできないか。マンガという切り口で様々な事業を展開しつつ、市全体の地方創生につなげるべきでは。
答 移住は大変興味深い。今後具体的にどういことができるか模索していく。



11/19、京都精華大学の吉村国際マンガ研究センター長をお迎えし行われた講演

Q 共助組織に安定的で継続的な支援が必要と考えるが

A 後継者育成・拠点施設整備等の支援を検討していく

本間 利博 議員



●現在、市内に9団体の共助組織が活動しているが、その中には全国的にも先進的な活動内容の組織がある。市では今後、新たな地域づくり組織を検討していく上で、共助組織の活動を地域に生かすべきと考えるが、所見を伺う。
答 新たな地域づくり組織においても、共助組織が地域コミュニティの活性化や地域住民が安全安心に暮らすために果たす役割の重要性を鑑み、現行の補助金制度の見直しを含め、共助組織への支援強化を図りたいと考えている。

●地域づくり活動は地区の安心安全を守るために、継続した支援を必要としているが方策はあるか。
答 県道や、グラウンドの草刈り等の作業委託に加え、さらに委託可能な作業等を検討していく。
問 後継者の育成や地区の活性化のための支援は、持続的な運営のために後継者の育成、拠点づくり施設の整備等、共助組織が抱える課題解決に向けた支援を検討していく。

●創作子ども歌舞伎上演は、役者子どもたちをはじめ関係する方々の熱意が伝わってきた。上演の目的と継続について伺う。
答 郷土の歴史・文化・伝統を理解し、ふるさとへの愛着と誇りを育て、地域貢献できることを目的としている。今後も多くの皆様にご覧いただけるよう工夫を重ねていく。



横手北小学校で上演された「創作子ども歌舞伎」

Q 地域局の将来像は？

A 適正な人員配置とサービス維持の両立を目指し検討する

加藤 勝義 議員



●地域の発展と地域局機能の縮小縮減という、相反する目標を掲げ、進めていかなければならない8つの地域局の将来像を伺う。
答 横手市は、同一規模の自治体に比べ職員数が多い。そのため、職員採用を最小限に抑えてきたが、市民サービスの低下を防ぐため、専門職を含め、必要な職員を採用してきた。再任用職員など、技術や経験を有する職員を地域局や庁内各所に配置する予定であり、適正な人員配置とサービス維持の両立を目指し、検討していく。

●定員適正化計画の職員数は、類似団体を参考に算出しているが、大切なのは今後の本庁や地域局のあり方をどうするのかを検討してから目標とする職員数を設定すべきと思うが。
答 類似団体に合わせないで、専門職を採用したりし

●生涯学習課とスポーツ振興課を、教育委員会部局から市長部局のまちづくり推進部に移管したが、本来は教育委員会の所管だと思う。19の課と300名を超える大所帯となったまちづくり推進部の再編を考えると、まちづくり推進部に負荷がかかっていることは認識している。市の取り組みに合わせ、ベターな組織づくりを考えていく。



横手市役所本庁舎

Q 予防接種副反応者への市独自の支援は？

A 現段階では予定していない

佐々木 誠 議員



●道の駅十文字について

●建設以来10年近く経過した道の駅の現状は。
答 平成19年9月にオープンして以来、直売所の物産販売等により大いに賑わっている。平成27年度の年間利用者は、延べ43万人を超えている。直売所の販売額も4億4千万円と過去最高となっている。

●国土交通省が地方創生の核となる、優れた取り組みをしている道の駅を選定する「重点道の駅」について、市の取り組みは。
答 現在「重点道の駅」に応募するための準備を進めているが、今年度は募集の情報はない。募集に関わらず、道の駅十文字は現在も地域の拠点として大いににぎわいをみせている場であり、ここを核として、ひいては横手市全体の活性化の手段として利用することは大変有効と考えている。

●予防接種について
問 副反応と思われる症状で苦しんでいる方々への医療費の支援をするべきと思うが、見解を伺う。
答 予防接種に伴う健康被害に対する救済制度は、予防接種法に基づいて行っている定期の予防接種とそれ以外のものに係る2つの救済制度がある。いずれの制度も厚生労働省に設置される審査会等での認定が必要となり、給付の決定まで相当数の日数を要する。現段階では市独自の費用給付などの支援は予定していないが、相談支援に努めていく。



にぎわう「道の駅十文字」の直売所

Q 農産物のブランド化、成功の見通しは？

A 3年～5年をめどに成功させる

青山 豊議員



市長が掲げる政策の柱の一つ「農地山林をフル活用」の中心である「農産物のブランド化」。本事業における意気込みと成功への見通しを伺う。

ブランドとは消費者から認められ「選ばれ続けること」「売れ続けること」と認識している。市は農産物のブランド化を「農産所得向上のための手段」と捉え、目指すブランドをタイプ別に整理し、取り組みを進めている。ブランド化は一朝一夕にできるものではないが、整備予定の地域価値創造拠点での活動を中心とし、課題を解決しながらブランド化への役割を着実に進める。

農業所得の向上という目標には数字が伴わなければならない。関係資料には420万円という数字が出て来るが、これが目標だと理解していいか。



ブランド化を成功させるためには…(写真は山内ニンジン)

そうではない。「農産所得の向上」はスローガンだ。ブランド化の成功のためには、ターゲットインングと差別化が必要だ。ターゲットインングはできていると思うが、差別化はできているか。農産物の特性によって差別化を図っていくべきと考えている。

税金を使って行っている事業には「いつまで」が必要だ。農産物のブランド化をいつまで成功させるのか。

3年から5年をめどにブランド化を成功させたい。

Q 来年3月廃止予定3施設は手続きが整っていないのでは？

A 住民説明が不十分であり、決定事項の説明に努める

齋藤 光司議員



●公共温泉施設の在り方・再編方針について

平成29年9月までに譲渡することになっている9施設の譲渡条件の明示を。

スケジュールや公募要件等の検討作業を急いでいる。今現在、内容をお示しできていないことを申し訳なく思っている。

補助金の返還等心配ないか。施設の存続にどう担保をとるのか。また、現在の指定管理者の優先性は。

譲渡後の施設の仕方方等で返還等必要になることもあるため、調整を図っていく。施設の存続を担保するために、市の幹部職員、外部有識者を委員とする審査委員会を設置して審査する。現在の指定管理者に優先性の付与は考えていない。

各施設の敷地問題の再編計画への影響は。統廃合の順位付けはどうなる。全施設の一斉公募を検討



えがおの丘

取り組み内容の市民への説明が十分でなかったと反省している。地域ごとに住民説明会等を開催する。

唯一、プール施設を持つ「えがおの丘」を何とか残せないか。

市全体のプールのあり様は、今一度検討を要する。

Q 白寿園は直営を続けるのか、民間移行するのか

A 直営を続ける

佐藤 誠洋議員



白寿園は昨年度から入所待機者が大勢いるにもかかわらず、職員不足から利用率が低下している。そのため、経営が赤字になり、税金による赤字補てんをしなければならぬ施設となった。また、臨時職員を募集しても応募がないことから一連の負の連鎖が続く、今年度も赤字になることが確定である。市長はこれまで現場をいかに把握して指示をしてきたのか伺う。

職員不足が続いていると把握してきた。健康の丘「おもり」の管理者とは、運営について協議してきたのか。

「健康の丘」の管理者である大森病院長は「健康の丘」に精通しており、会った際、運営に関する感謝と引き続き業務への依頼などを伝えている。

市長には責任者としてこれまでの言動を十分反省



白寿園の外観

Q 議決された予算を執行しない市長の責任を問う

A 重く受け止め、職務に励んでいきたい

木村 清貴議員



全国消防操法大会に派遣される消防団幹部・隊員とその家族の旅費等を盛り込んだ平成28年度一般会計補正予算(第3号)は、9月議会最終日の23日提出され、即日可決された。しかしその後、隊員の家族の旅費は最終的に支出されなかった。なぜそういう結論になったのか。

出場分団から辞退したいとの申し出があり、予算執行に至らなかった。議決された予算を執行できなかったことについては、重く受け止めている。

市長自身が提出し、議会でも認められた予算を、自分で支出しないなどあり得ない。しかもその決断は可決からわずか4日後の27日のことだ。これは9年以上議会に在籍していた市長のやることではない。「議会軽視」ではなく「議会無視」だ。他の議員の一般質問に



全国大会で10位入賞した山内消防団の小型ポンプ操法

対する答弁を聞いていてもわかる。その場しのぎのいい訳ばかりだ。

9月議会で指摘した保育所爆破予告の件でもそうだった。市長は何の指示も出していないことなど、とうに知っていた。我慢を続けてきたが限界だ。

市長は子どもを持つ家庭、消防団員の家庭を裏切り、議会との信頼関係はもはや全くなかった。さすがに今回は、何らかの責任を取るべきだ。今回の指摘を胸に刻んで職務に励んでいきたい。

厚生常任委員会

土田百合子 高橋和樹 菅原恵悦 播磨博一
土田祐輝 佐藤誠洋 木村清貴 阿部正夫



クリーンプラザよこての 運営について深い議論

◆一般会計補正予算（第4号）
問 私立保育所に対して給付費を交付するに当たり、保育士給与のベースアップに関する指導は行っているのか。

答 指導監査により給付費がどのように使われているかを確認している。人件費として支出しなければならぬ割合も決まっているが、一時金とするのかベースアップとするのかは法人の判断になる。市としては、将来的な給与の安定の面からベースアップをお願いしている。

問 当初計画では、ごみは減っていくという見込みであったが、処理量が増えた理由は何か。

答 ごみの排出量は年々減少しており、クリーンプラザよこて建設前の過去5年間の処理実績と人口減少の影響も考慮して、ごみ処理施設規模を決定している。今年度上半期の処理実績から、今年度の処理量が見込みより増える想定しての補正となった。破碎した粗大ごみや再資源化ごみの残渣なども燃やしているため、処理量が増えている可能性もあるが、施設稼働の初年度であり、正

確なデータの分析にはもう少し稼働実績が必要になる。

問 クリーンプラザよこてのごみ処理にかかる経費は、全て契約予算内で賄われるのではなかったのか。なぜその都度、補正予算が計上されるのか。

答 運営委託料には、処理費用として固定料金と変動料金がある。特にその中で、変動料金に当たる主灰の発生量は、毎年度、年間1430トンを見込んでいたが、上半期の処理実績から、今年度は最大で1734トンの主灰の発生を見込んで補正した。一方で最終処分場への埋め立て量が3分の1近くまで下がっているという結果も出ている。毎月モニタリング会議で燃えるごみの処理状況を分析しており、今後、下半期の状況も含めた年間の正確な実績を見ながら、主灰の発生量を検証し、状況報告をしていく。

◆横手市病院事業会計補正予算
問 横手病院の駐車場が増えることにより、除雪を含めた駐車場管理体制はどのように考えているのか。

答 現在、駐車場管理は5名の職員



市立横手病院駐車場取得予定地を視察

で対応している。駐車場が増えることにより縦列駐車が必要になるため、新しい駐車場への配置換えなどができる見込みである。除雪に関しては、前年度と同様の体制で行う。

◆横手市障害者支援施設「ひまわり社」の指定管理者の指定について
問 修繕等の協定はどのようにしているのか。

答 それぞれが負担する金額の上限等は定めていない。古い施設であり、修繕等が必要な際には協議して決めることとしている。

（土田 百合子）

産業建設常任委員会

青山 豊 小野正伸 佐々木喜一 齋藤光司
加藤勝義 佐々木 誠 佐藤清春 塩田 勉

「えがおの丘」の方針について 市長の真意を問う

◆一般会計補正予算（第4号）
問 今年度の農地集積の状況と今後の見通しはどうか。

答 今年度、出し手から農地中間管理機構への異動は500ヘクタールほどになると見込んでいる。昨年度は600ヘクタールを超えており、昨年度がピークと見ていた。しかし、今年度も予想以上に集積が進んでいる状況であり、来年度も一定の面積の異動があるものと見ている。

問 増田地域への臨時バスなどの運行とあわせて、観光客に対するおもてなしも考えなければいけないと思うが、この点の検討はしているのか。

答 現地である増田地域の方々と受入態勢について話し合いを持ちたいと思っている。また、近々予定されている横手市観光連盟と横手コンベンション協会の合同理事会において、各業界でのおもてなしについて相談をかけるとともに、観光ガイドの会や観光案内の方々への協力の呼び掛けや、バス・タクシー乗り場の案内など、お客様目線での対応をしっかりやっていきたい。

◆山内ふれあい交流センター「ポッポあいのの」の指定管理者の指定について
問 指定管理者を選定するまでの経緯について伺う。

答 現在の指定管理者であるよこて市商工会から、事業のスリム化等により指定管理を受けない旨の申し出があった。そういう中で、公募による募集を行い、「村さ来亭」1団体から申請があり、選定委員会の審査等を経て、候補者として決定した。

◆陳情28第16号 「えがおの丘」温プールの存続について

担当職員では答えられない部分があると判断し、市長、副市長に出席を求めて審議した。

委員からは、「一般質問の答弁や議員懇談会での説明を鑑みると、『えがおの丘』にあるプールを残すという意味合いで受け取っていた。さらに、陳情書の文面を読む中で、これも明らかに『えがおの丘』のプールの存続だと認識していた。市長、副市長の説明を受けたが、これは『えがおの丘』のプールに関してではなく、市全体のプールのあり様を言っ

た内容であるとの説明があった。これは我々の認識と相反する考えである。陳情書を検討するにあたり、内容が一致しておらず、今後さらに真意を問う必要があること。また、陳情者の思いも文章だけでは判断できない部分があることから継続審査を求める」との意見があった。

取り扱いについて委員に諮ったところ、全委員賛成（委員長除く）により、継続審査とすることに決定した。

（小野 正伸）



ホースメーカーの株八興（増田）を視察

総務文教常任委員会

高橋 聖悟 立身万千子 菅原 正志 奥山 豊和
本間 利博 寿松木 孝 佐藤 忠久 遠藤 忠裕

条例案を否決 !!

◆都市公園条例及び社会体育施設設置条例の一部を改正する条例

問 どの施設を指定管理に出すのか、何を業務としてもらうのか具体的内容が示されていない中で、指定管理者による管理及び業務等の規定を追加する提案はおかしくないか。

答 当初は横手体育館、武道館、赤坂総合公園の3つの施設としていたが、赤坂総合公園は、管理基準を再度検討する必要があるため、現在、横手体育館と武道館の2つで進めている。民間活力を活用して、市民サービスの向上や経費の削減に努めるということ導入する趣旨である。

※その他、「中身が詰まっていないのではないか。条例可決後に考えるのは順番が違う」また、「準備が整わない、方向性が定まっていないもの提案はいかか」など、今改正することに懐疑的な質問があった。採決は起立により行い、出席者起立少数（賛成1、反対5、退席1、委員長除く）により否決された。

◆財産の無償貸付及び減免貸付

問 旧金沢中学校の建物、土地の契約について。

答 契約時期は、議決後に速やかに相手会社と手続きしたい。空き公共施設の利活用については、第一義的には、公共的利用を考え、その用途がなければ、民間の利活用や、廃止ということを考えていく。

※旧金沢中の貸付料について、建物は無償、土地は普通財産貸付料算定基準によって算出した額の2分の1の額。

◆一般会計補正予算（第4号）

問 ウィンタースポーツパワーアップ事業について。

答 これは県の事業で、運動不足になりがちな冬期間にも積極的にスポーツに親しんでほしいということから、小学校のスキー教室でこの事業を活用している。予算は、市外のスキー場に行く際のリフト代の補助等に充てられている。

◆陳情第28第17号 福地小学校跡地への福地地区拠点施設の建設について

旧福地小跡地活用について、当委員会では、数年かけて議論を行ってきた。地域の実情、市の構想等を鑑み、今委員会において採択すべきものとした。



市内の公民館を視察（写真は沼館公民館）

◆所管事務調査

新たな地域づくりとして試行されている、公民館の「地区交流セタ化」。現在、14の公民館にて、地域の皆さんが、鋭意、地区の運営、特色ある事業を展開し、交流センター化を進めている。その拠点ともなる現存の14施設を所管事務調査で訪問した。それぞれの事業内容とともに建物、設備も調査。市の進める施策が機能しているか、または足りているか。地域住民のため、この成果を報告し、地域の活力を促したいと委員全員が思ったところである。

（高橋 聖悟）

先進事例を学ぶ

= 行政視察の報告 =

10月中旬から11月上旬にかけて2つの常任委員会と議会運営委員会が下記の項目を研修しました。主な内容をお知らせします。

- 厚生常任委員会 (10/11～13)**
 福井県越前市 児童養護施設「一陽」
 石川県金沢市 Share (シェア) 金沢
 石川県加賀市 高齢者お達者プラン (包括ケアプラン)、議会提案「地域医療を守る条例」
- 産業建設常任委員会 (10/24～26)**
 新潟県新潟市 国家戦略特区 (農業特区)、ニューフードバレー構想、田んぼダム、農業活性化研究センター
 新潟県十日町市 除雪基本料前払い制度、冬期集落保安要員
- 議会運営委員会 (10/31～11/2)**
 北海道芽室町 タブレット端末の導入、ICT推進計画、北大公共政策大学院との包括連携協定
 北海道帯広市 議会改革の取り組みと議会運営

厚生



児童養護施設「一陽」のリビングルーム

福井県越前市の児童養護施設「一陽」は、全国的に設置が進んでいる「小舎制(しょうしゃせい)」の施設です。大人数が一度に食事、入浴するといった管理型の運営ではなく、少人数のユニットに専属の職員が配置され、家庭的な環境の中で子どもの心のケアと、社会で生きていくための力をつける取り組みがされていました。また、社会人になってからも実家のようにサポートを行っているとのことでした。

このほか、金沢市の民営複合型福祉施設エリア「Share(シェア)金沢」と、加賀市の地域包括ケアシステムの取り組み「高齢者お達者プラン」を視察しました。(菅原 恵悦)

産業建設



農業活性化センターで説明を受ける

新潟県新潟市で農業政策、同十日町市では雪対策について研修しました。

農業政策では「ニューフードバレー構想」「国家戦略特区」「田んぼダム」についての説明をいただき、よこて農業創生大学の参考として農業活性化センターを視察しました。合併により全国トップクラスとなった農業のポテンシャルを生かした取り組みの数々と戦略の明確さに刺激を受けました。

雪対策の研修では、除雪委託料の基本料金を設定し、その7割をシーズン前に業者に支払う「除雪基本料の前払い制度」が大いに参考になりました。(青山 豊)

議会運営



芽室町議会の議場を会場に研修

北海道の芽室町と帯広市を議会運営及び議会改革の取り組みを目的に調査、研修をしてきました。

芽室町では、タブレット端末の導入を含む議会ICT推進計画や議会と大学の連携の在り方、通年議会制、議会サポーター制度など、議会の資質向上に向けた取り組みを学ぶことができました。帯広市においては、議会報告会の他に、若者や女性、最近では高校生など対象を絞った意見交換会の具体例などを聞き取りしました。

※議会改革度調査2015 ランキング全国1位の芽室町、横手市より上位の帯広市、両議会の取り組みは大いに参考になるものでした。

(播磨 博一)

10/4 県南地域市議会議員研修会



県南4市の議員が一堂に会する

大仙市で国際教養大学の鈴木典比古学長を講師にお迎えし行われました。知力・体力・倫理力・リーダーシップ、全人力を持った21世紀型のグローバル社会で活躍できる人材を育てる国際教養大学のリベラルアーツ教育は、国内のみならず世界中から注目されています。同大学は、大仙市・仙北市と連携協定を結び、多くの学生が小中学校を訪問し、また横手市や湯沢市においても授業の一環で地域の行事や活動に積極的に参加しているように、県南4市と国際教養大学には深い絆があります。これからも、観光をはじめ4市の連携で新たな時代を共につくっていきましょう。

(奥山 豊和)

11/11 秋田県市議会議長会議員研修会



地元を拠点に活躍する海老名氏が講演

今回はご当地ヒーローの草分けである、超神ネイガールの生みの親、海老名保氏を講師に迎え、「秋田から世界に発信！正義の味方の挑戦」というテーマで講演を伺いました。海老名氏は、秋田の子どもたちのみならず、世界の子どもたちに「正義のヒーロー」の姿を見せて、夢や希望、世界平和の心を持たせたい。それを秋田県にかほ市から発信していきたいとのことで、タイで氏が生み出したヒーローによるテレビ番組が始まります。あくまで地元を拠点で活動を行う海老名氏のような若者が増えることを願い、また増えるように政策推進を行わなければならない、と感じた研修でした。

(佐藤 誠洋)

議会報告会・意見交換会での
要望等に対する市の回答

平成28年7月に開催した「議会報告会・意見交換会」で市民の皆さんから寄せられたご意見等を、10月17日に佐藤議長、遠藤広報広聴委員長が、高橋市長に報告しました。

市に回答を求めた31項目のうちの一部を抜粋してお知らせします。全文は、市議会ホームページでご覧いただけます。



市民からのご意見等を市長(右)に手渡す佐藤議長(中央)と遠藤広報広聴委員長(左)

テーマ	市民の皆さんの意見・要望	市からの回答
避難所	自分の避難場所は金沢公民館になっているが、金沢小学校跡地に公民館が移ると遠くなってしまう。地域のお寺など近くで広いところを避難場所に指定できないか。 どこが避難場所かわからない人も多いと思う。ゴミの集積所に「あなたの避難場所は〇〇です」というような掲載をすべき。	地域において災害時の避難場所として寺や広場等を利用されることは有効と考えます。現在、ハザードマップ等の改訂を検討しており、総合的に検討してまいります。ごみ集積所の利用についても有効と思われませんが、集積所により、表示プレートを設置できない場所や積雪時の問題等もありますので、慎重に検討していきたいと思っております。
環境	環境美化のお金は今年から環境美化推進員のいる町内会に交付されることになった。それは良いことだと思うが、そのお金をあてにしてごみ集積庫を修理したが、年度末でないと交付にならないということだった。性質が報償金であるからということだが、年度初め交付の使い勝手の良い形に改めてほしい。	環境美化推進員制度の活動報償金については、1年間の環境活動への報償として支払われるものであることをご理解願います。ご要望にありますごみ集積庫の更新や修理に関しては、従来より、ごみ集積庫補助金により助成しております。
交通	美砂古の交差点が非常に込み合っている。イオン方面から来る車が踏切まで続いているのが、珍しくなっている。以前から柳田の交差点と美砂古の交差点について、国道を拡張する要望を出していた。新町から出るのに四苦八苦しており、非常に危険だ。地域でも話し合っていかなければいけないと思っているが、この点も要望として取り上げていただけるとありがたい。	美砂古交差点の改良については、交差する市道堤美砂古線の改良計画を含めて調整を行う必要があることから、今後調査等を行いながら湯沢河川国道事務所との協議を進めてまいります。 また、国道13号の拡幅や歩道整備についても今後湯沢河川国道事務所に対して引き続き要望を行ってまいります。
街路灯	町内の街路灯もLEDに変えたい場合、市から補助が出るのか。この機会に町内の街路灯もLEDに変えたいという要望がある。	横手市街路灯及び防犯灯設置規則に基づく防犯灯設置等補助制度で対応可能な場合もありますのでご相談ください。
観光	観光客から「横手やきそばのおいしい店を紹介してほしい」という問い合わせが結構あるが説明するものがない。観光課に行ってもパンフレットの部数がない。駅前に回されても同じように跳ね返されてしまい嫌な思いをしている。地域づくり協議会で、市長にもやきそばと観光のパンフレットを一緒にしたらどうかと提案した。外国からの観光客も増えてきているので早急に進めていただきたい。	横手やきそばパンフレットについて、在庫不足とならないように今後注意するとともに、すぐにお渡しできなかった場合には、増刷時にお渡しできるように対応したいと思います。また、観光パンフレットと一緒にする件については、横手やきそばのパンフレット(簡易版)を既存の観光パンフレットに織り込んで配布する等の対応を検討したいと思います。

11/16 「Y8サミット」創快横手市議会「開催」
「社会参画」の意識を高め、地方行政に一石を投じる

- 3回目となる今年度は、市当局側の立場で我々議員の質問に対し答弁する形式から一変、開会前の「横手市議会中学生議員任命式」にて佐藤議長から任命された、市内8中学校の各代表3人が議員という立場で質問席に立ちました。
- 本会議では、中学生議員の皆さんが市長と市当局に対し、横手市の現状と課題を訴えるとともに、さらに住みやすい横手市にするための政策提案を行いました。
- 今回の開催に向けて生徒さんたちは、自分たちが学校から社会に出た時にどういった生き方をすべきか、社会人として生活するとき、何が横手市に不足しているのか、各中学校間で意見交換を重ねてきました。
- マナーアップについて
- 地域行事の担い手不足の問題について
- 自然を活用するイベントについて
- スポーツ振興と多機能な体育館の設備について
- 進学・就職先の充実のための大規模学建設(誘致)について
- 交通網の整備について



市長に質問する中学生議員

(高橋 和樹)

市民の声

議会を見学して

12月6日に、山内小学校6年生の皆さんが一般質問の様子を見学しました。児童の皆さんから寄せられた感想の一部をご紹介します。

● 議場に入ってくるとき、全員礼をして入り、「おはようございます」とあいさつをしていたので、聞いていた私もいい気持ちになりました。

● 意見に説得力があり、私

ちの話し合いでも議員さんのようにはっきりとした意見を言えるようにしたいです。

● 議員の質問は、いつ解決して、実行するのはいつなのか気になりました。

● 工業が盛んになれば人が戻って来られるかもしれません。私は秋田で暮らしたので、どんどんよくなっ



議会を見学する山内小学校6年生の皆さん

● 自然を大切に、環境が良いまちになるために、自分もできることがあるなら取り組んでいきたいです。

議会の主な動き

平成28年10月～12月

10月

- 3日 広報分科会
- 4日 広報分科会、広聴分科会、県南地域市議会議員研修会
- 5日 スポーツ振興議員連盟意見交換会
- 11日 厚生常任委員会視察研修（～13日 福井県越前市、石川県金沢市・加賀市）
- 17日 総務文教常任委員会協議会、公共施設の在り方に関する調査特別委員会、ペーパーレス会議システム講習会、広聴分科会、FM議会番組収録
- 18日 議会改革推進会議
- 19日 全国市議会議長会研究フォーラム in 静岡（～20日）
- 24日 総務文教常任委員会協議会、産業建設常任委員会視察研修（～26日 新潟県新潟市・十日町市）
- 27日 全員協議会、会派代表者会議、タブレット端末導入推進会議
- 31日 議会運営委員会視察研修（～11月2日 北海道芽室町・帯広市）

11月

- 4日 FM議会番組収録
- 9日 全国市議会議長会理事会、厚生常任委員会協議会
- 11日 秋田県市議会議長会議員研修会
- 15日 総務文教常任委員会協議会
- 16日 Y8サミット創快横手市議会、公共施設の在り方に関する調査特別委員会
- 17日 広報分科会、タブレット端末導入推進会議
- 21日 正副委員長会議、全員協議会、議会運営委員会、広聴分科会
- 22日 秋田県市議会議長会臨時会
- 24日・25日 FM議会番組収録
- 28日 12月定例議会（～12月14日）、議会運営委員会

12月

- 1日 広報分科会
- 5日 議会運営委員会
- 7日 議員懇談会
- 8日 総務文教常任委員会協議会
- 12日 正副委員長会議、議会運営委員会、公共施設の在り方に関する調査特別委員会、スポーツ振興議員連盟条例の検証会
- 13日 広報分科会、議員懇談会、総務文教常任委員会協議会
- 14日 議員懇談会、議会運営委員会
- 19日 広報分科会、FM議会番組収録
- 20日 タブレット端末導入推進会議視察研修（～21日 愛知県安城市、東京都中央区）
- 21日 FM議会番組収録
- 22日 広報分科会、消防議員連盟研修会
- 23日 広報分科会
- 27日 議員懇談会

編集後記

県内の議会では2例目となるタブレット端末の導入後、いよいよ今議会から本格運用が始まりました。このツールを最大限活用した議員活動と議会運営に努めたいと思います。また、今12月定例会で一般質問を行った議員は、現在の定数になってからは過去最高の15人でした。そのため、今号の議会だよりはページ増となってまいりますので、いつもより読み応えがあると思います。

表紙の写真も引き続き募集しておりますので、我こそはと思う写真愛好家の皆様には、奮ってご応募くださいますようお願いいたします。（高橋 和樹）

◇広報広聴委員会広報分科会◇

- | | |
|-------|--------|
| 分科会長 | 佐々木 誠 |
| 副分科会長 | 奥山 豊和 |
| 委員 | 高橋 聖悟 |
| | 高橋 和樹 |
| | 佐藤 誠洋 |
| | 立身 万千子 |
| | 阿部 正夫 |

